

遊工房アートスペース 年間報告 2013



遊工房アートスペースでのアーティスト・イン・レジデンス事業は
平成25年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業として採用されました。

遊工房アートスペース 年間報告 2013

目次	ページ
はじめに — 2013 年を振り返って	6
遊工房について — ヴィジョン・バリュー・ミッション	7
1. 主要事業活動概要	
1-1. AIRプログラム	11
1-2. ギャラリー・プログラム	18
1-3. Youkobo PLUS	23
— インドの山奥から帰ってきました。	
— “Piano Project” - stuttgartものがたり	
1-4. イベント	25
— アーティスト・トーク、クリティーク・セッションなど	
2. ネットワークを生かすチャレンジ	
2-1. マイクロとマクロ: 美術大学	31
— 共同研究	
2-2. マイクロとマクロ: Foundation・機関	32
— 欧州文化首都 2013・Kosiceとのこと: KAIR × Youkobo	
— プルゼニとのこと	
— 寄居壁画プロジェクト	
2-3. マイクロとマクロ: ネットワーク	34
— INSTINC: Project 6581	
— Studio Jean	
— microresidence ウェブサイト立ち上げ	
— ジオラマ巡礼プロジェクト	
3. 地域活動、コミュニティーアート	
3-1. 「アートキッズ」-子どもの斬新なアートワークショップ	43
3-2. 野外アート展: 「トロールの森」12 年目、「春のトロールの森」9 年目	44
4. 2013 年活動一覧	付表

Index

* 本文中の記号について



文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業



マイクロレジデンス調査・研究プログラム



マイクロレジデンスネットワーク活動



欧州文化首都関連プログラム

1. はじめに - 2013 年を振り返って

2013 年は、ベテランの彫刻家によるギャラリー展示と、欧州文化首都 2013・スロバキア・コシチエ市の AIR、KAIR との交流プログラムで来日したスロバキアのアーティスト滞在で AIR プログラムでスタート。2012 年を「マイクロレジデンス元年」として、世界の様々な地域で AIR を独自に展開するマイクロレジデンス仲間が東京にそして、遊工房に集い、その存在の顕在化、相互の協力活動試行、ネットワークの可能性が議論され、2013 年はその本格的な活動の年となった。

AIR 事業の社会装置としての仕組み、ネットワークの可能性について、学際的な調査・研究テーマとして、地元の美術大学、女子美・日沼研究室、芸大・OJUN 研などの指導も得て始めた。女子美からはインターンの形式で事業現場に入り込む形の 2 名の実習を始めている。

マクロな機関とのネットワーク協力活動として、欧州文化首都 2013・スロバキア・コシチエ市の AIR、KAIR との交流プログラム、オーストラリア AsiaLink、ニュージーランド AsianNZ 財団との提携事業の開始、ドイツ日本人 Bosch 社を通して、埼玉県寄居町から受注した地域活性化センター「アグリ館」の壁画制作 Project、一方、日本人アーティストの海外派遣として、シンガポールへ 2 名、スロバキア/コシチエへ 2 名、チェコ・ブルゼニの大学サマーアートキャンプへ 1 名、メキシコへ 1 名、フランスの大学「外の外」展への若手作家グループの参加など多彩な活動を行うことが出来た。

マイクロ同志の展開として、Project 6581 (シンガポール INSTINC) の展開、国内では、横浜ハンマーヘッドスタジオでの Studio Jean や、福岡 Studio Kura との協働活動を引き続き展開、年度末への「マイクロレジデンス・ネットワーク・フォーラム実行委員会活動」に発展することが出来た。また、2012 年集った仲間のマイクロレジデンス・ネットワークの Web サイトの開発にも着手した。関連するジオラマ巡礼 Project も始めることが出来た。

また地域のアーティストを主体とする凹地との協働がスタートした。地域のアート活動を通じた貢献としては、小学校との継続プログラム、「アートキッズ」の 9 年目展開、春の「こどもトロールの森・野外アート展」(同じく 9 年目)はネパールアーティスト、ラヤ・マヤの参画、秋の野外アート展「トロールの森 2013」(12 年目)への協力などがある。

遊工房の場と機会を通して活躍し、交わったことでの成果は着実に広がり、また継続している現実をこれからも大切に育ぐんで生きたい。

遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー(核となる価値観)

- ・開放性と交流：
アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。
- ・フレキシビリティ(柔軟性)：
アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。
- ・自律性：
コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション

- ・真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。(AIRプログラム、ギャラリー・プログラム)
- ・国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。(アート・イベント、トーク)
- ・他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)
- ・人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

遊工房アートスペースは以下のメンバーで運営されている任意団体です。

共同代表： 村田弘子、村田達彦

スタッフ： 石井隆浩、針谷美香、椛田有理、ジェイミ・ハンフリーズ、太田エマ、江原彩子ほか

インターン： 辻 真木子、渡邊遥

1. 主要事業活動概要

1-1. AIR プログラム

1-2. ギャラリー・プログラム

1-3. Youkobo PLUS

1-4. イベント

1. 活動概要

1-1. AIR プログラム

2013 年は、(スロバキア、オーストラリア、アメリカ、カナダ、シンガポール、ルクセンブルク、フランス、ドイツ、スイス、アイスランド、イギリス) 11カ国 12組 18人の滞在制作などの参加があった。この内、スロバキアから1名は、KAIRと、また、プロジェクト6581のシンガポールからのアーティスト2組2回計4名の参加は、INSTINCとの交換プログラム(Project 6581)である。また、埼玉県寄居町でドイツのアーティスト2名による寄居町営施設「あぐりん館」の壁画を滞在制作する活動の支援を新たなAIR事業(寄居壁画プロジェクト *項目、2-1参照)として行った。(総計18名の参加)



ニコラス・バスティン(オーストラリア)

2012.12.3-2013.2.23 レジデンス 1+スタジオ 1

ジュエリー作家として90年代よりオーストラリア国内外で活動続けるニコラス・バスティンは、近年、現代美術の世界でも活発に活動を展開している。滞在中は、物語の世界を超えて強い影響力をもつ日本のテレビや映画のヒーローやアニメのフィギュアと、現実の日常で手に入るオブジェを西洋人の視点から、比較研究した。そして、滞在生活を通して集めて作る彼自身の個人的なコレクションをディスプレイし、その集積である風景を表現することを探求した。



エリック・シレ(スロバキア)

2013.1.9-3.26 レジデンス 2+スタジオ 2

エリック・シレは、スロバキアを拠点にヨーロッパで活躍する新進気鋭のアーティストで、綿密かつ大胆な画面構成のアクリルペインティングが特徴。本レジデンスが初来日のエリックは、3ヶ月の滞在制作の中で、以前から強く影響を受けてきた日本のヴィジュアルカルチャーをより深くリサーチし、産業による自然介入を風刺する近作シリーズへと反映させた。レジデンス最後には展覧会を行った。



文

デイビッド・パッカー-&マーガレット・ランゼッタ(USA)

2013.3.1-4-30 レジデンス 1+スタジオ 1

デビット・パッカーは英国に生まれ、1983年にアメリカに移住、ワシントン、マイアミ、NYで暮らしてきた。1994年にフロリダ州立大学で修士過程を終了。現在はNYロングアイランドに構えるスタジオを拠点に国際的に活躍。木彫と陶芸による創作と並行して、ドローイング、コラージュ、近年ではアーティストブックを制作している。最近の活動では、フルブライト奨学金で2011年にモロッコで陶芸をリサーチ、個展を開催した。

マーガレット・ランゼッタは現在NY市在住。同市のthe School of Visual Artsにて修士号取得。最近ではストックホルムのIndependent Art Fairに出展している。彼女の作品は仏教、自然、イスラム建築、産業、60年代のポップカルチャーから着想を得ており、部分的に図式的または比喩的な作品は、有機的な植物のフォルムのシステムを取り込み、建築や産業の素材や多様な文化資源から重複的なパターンを抽出したものだ。ウォーホルの作品と並び、パターンが脱構築され、繰り返される色と形として刷られている。デジタル技術、ペインティング、多様な版画の工程を合体させ制作している。



文

エリザベス・プレサ(オーストラリア)

2013.4.1-4.30 レジデンス 2+スタジオ 2

エリザベス・プレサはオーストラリア・メルボルン在住のアーティストでメルボルン大学の学際的思想センターの所長でもある。プレサは、プラスターの鋳物、養蚕、養蜂などを含む様々な素材や工程を取り入れた作品を制作している。テクスチャー、読むこと、書くことの詩的要素に興味を持っており、哲学者とのコラボレーションなども多数行ってきた。遊工房での滞在期間には、銀座の屋上で展開される養蜂についてのリサーチを行った。養蜂は、オフィスで働く人や住民にとって可能な、共同体的なインタラクションや環境問題に対する運動になり得ると考えているからだ。



文

レネイ・エガミ(カナダ)

2013.5.1-7.29 レジデンス 2+スタジオ 2

Renay Hiromie Egami は、カナダに移住した日本人の三世としてバンクーバーで生まれた。彼女は、第二次世界大戦中の強制疎開により、住み慣れた地域を余儀なく追われた家族の歴史が、3.11 で地域を追われた人達の思いと呼応すると言う。Brithish Columbia 大学で教鞭をとりながら、彫刻、ビデオ、ライトプロジェクションなど、さまざまな手法を用い作品を制作。初めての日本での長期滞在中、伝統技術などのリサーチを行った。



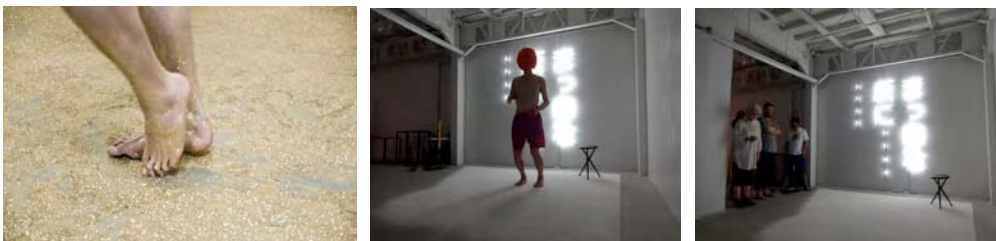
文

ダヴィッド・プロニオン(ルクセンブルク)

2013.5.2-6.29 レジデンス1+スタジオ 1

ダヴィッド・プロニオン(と彼のコラボレーターのステファニ・ロラン)は実存的体験に触れながら、街のサブカルチャー、メタファー、コード、儀式や規則に焦点を当てる。パブリックスペースの潜在的なリアリティとその空間の多様で習慣的な使い方との緊張感を作品に微妙に織り込み、人生の暗部、運命、死亡、暴力の体験と同時に希望、詩、光を反映している。主にビデオ、写真、オブジェ、また大規模インスタレーションを通して上記のコンセプトを形にしている。プロニオンは影に光を当て、「識閥の領域」の解釈に丁寧に取り組んだ。

(ルクセンブルク大使館特別協力)



文 MN

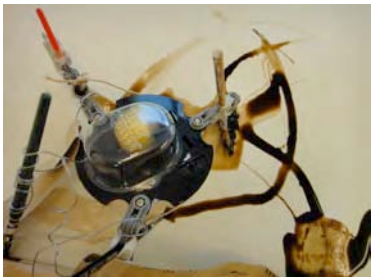
シーユン・ヨー (シンガポール)

2013.7.2-7.25 レジデンス 2+スタジオ 2

シーユン・ヨーは、墨絵を描く行為そのものに新しい解釈を加えた作品で高い評価を得た作家である。彼女の実験的な作品は、シンガポール美術館からの依頼制作により恒久展示されており、2012 年にアジア・アート賞のピープルズ・チョイス賞、2007 年には、UOB 年間最優秀賞優秀賞を受賞した。

滞在期間中は、おもちゃのロボットを用いて斬新な制作手法を探索した。人の手の感触、または指でなぞるといった行為を機械的な手法に置き換え、小さい「機械」によって創造的な過程を生み出すことを作品にしたのだ。

(シーユン・ヨーはシンガポールの Project6581 とのアーティスト交換プログラム第一弾、招聘アーティスト。)



文 MN

ジャスティン・リー (シンガポール)

2013.7.2-7.25 レジデンス 2+スタジオ 2

ジャスティン・リーの作品は、東洋と西洋の文化を混ぜ合わせることによって、現代社会と生活様式の異なった解釈を生み出している。彼の作品は、言葉、物体、そして印象がどのように我々の思考や表現を支配し、構築しているかという点を反映しているのだ。外見的なものを疑い問題視する事により、日常生活を、彼の文化的経験や取り巻く環境に基づいた視覚的芸術に記録しようと努めている。今回の滞在では、自然が、どのように日常生活において人間によって支配され、構築されているのか考察した。

(ジャスティン・リーはシンガポールの Project6581 とのアーティスト交換プログラム第一弾、招聘アーティスト。)



Painting was no longer about the description of the visible world, it became a means of conveying the inner landscape of the artist's heart and mind.



文

アルノー・ガリーギア(フランス)

2013.9.1-10.31 レジデンス 1+スタジオ 1

伝統的な炭工芸の技術を通して、アルノー・ガリーギアは捨てられた物や彼が見つけた破片などを白と黒の図の実験に再利用している。記憶とまだ完全に定着していない彼が製造した炭から、彼は時間と天候影響が画像を作る過程において互いに関与している絵を創り出そうとした。

遊工房滞在期間中、彼は、紙の持つ光の加減と物質効果を実験するため、日本の紙作りを体験した。





カイルラー・ラヒム(シンガポール)

2013.9.5-9-24 レジデンス 2+スタジオ 2

カイルラー・ラヒムは、2013年にLASALLE College of the Artsを卒業。在学中より現在まで国内外を問わず多くの展覧会(2011 Notes In Idolatry 等)、アートフェアに参加した。また、2009年にはSLA Painting Competitionで1位を獲得するなど高い評価を得ている、シンガポールで活躍する若手アーティストの一人だ。(カイルラー・ラヒムはシンガポールのProject6581とのアーティスト交換プログラム第三弾、招聘アーティスト。)

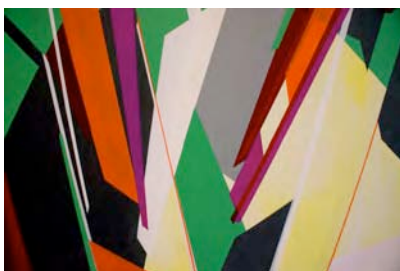


アデー・プトウラ・サーファ(シンガポール)

2013.9.5-2013.9.24 レジデンス 2+スタジオ 2

アデー・プトウラ・サーファは、現在ラサール芸術大学にて、BA(Hons)Fine Arts Programに従事している。近年国内でいくつかのギャラリーにおけるグループ展、そしてBank Art Fair2013(香港) Georgetown Art Festival(ペナン、マレーシア)に参加してきた。最近では、シンガポールのThe Japan Creative Centreにて、地元と日本のアーティスト達6人と共に展覧会を開催していた。サーファは、媒体物や素材をたくみに作品に使うことに優れており、インターネット、雑誌、そして記事から彼が選択した写真を多く作品に取り入れている。特に毎日の経験や建築物からインスピレーションを受け、色や雰囲気等の異なった視覚的美学の側面に関心がある。

(アデー・プトウラ・サーファはシンガポールのProject6581とのアーティスト交換プログラム第三弾、招聘アーティスト。)



文

ライア・ジョウ(スペイン)

2013.10.5-10.31 スタジオ 2

彼女の作品の出発点は、内なる世界だ。彼女は水彩画を通して、彼女を取り囲む物、好奇心を刺激、そして彼女を高揚させるものを表現している。彼女は主に、官能的な体験(一緒に試食すること、むさぼり食うこと、分け合うこと、体に食べ物を与える)の中にある親密な瞬間とセンセーションを明らかにすることに焦点を当てた。

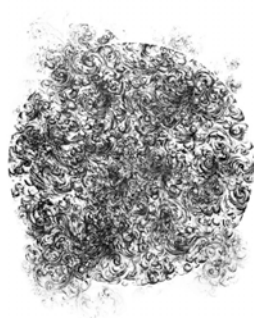


文

パトリック・ガブラー(ドイツ)

2013.11.1-11.30 レジデンス 2+スタジオ 2

パトリック・ガブラーは、ハンブルグ在住のアーティストだ。彼の巨大なドローイングに含まれている精密な写像は、歴史的な地図学のようにも見え、また現代それらと同価値なもの、非常に精密な構成図によって計画された世界のようにも見える。滞在期間中、彼は墨の独特な使い方と巻紙の上に文体として描かれた日本のドローイングに影響を受けたシリーズ「Circle&Cosmos -円と秩序-」を制作した。そして、現存する50の作品からなる10年間の集大成に、この作品を加えた。



文

アマンダ・リッフォ(フランス)

2013.11.6-12.31 レジデンス 1+スタジオ 1

アマンダ・リッフォはアイスランド在住のアーティスト。2012 年に続き、二度目の継続制作活動を行った。彼女は、数学的論理、化学的プロセス、そして実験的芸術、また些細な間違いや誤解に興味がある。2012年、彼女はレジンスアーティストとして遊工房に滞在、そこで、プロジェクト“Space Homeless Pavilion”をスタートさせた。滞在期間中は、ドローイング、写真、その他の媒体を通じ、空間と時間局面を探求する彼女の前のプロジェクトの一部として“SHP Part2 Homeless Pavilion”を展開した。

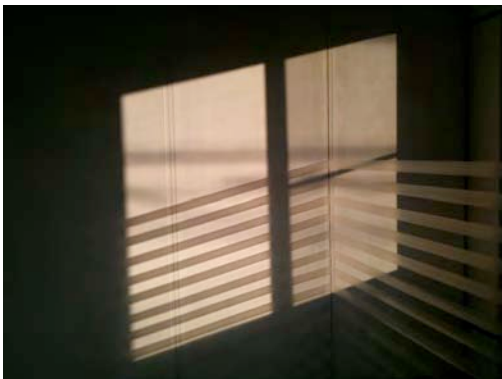


文

ダニエル・ゴティン(スイス)

2013.12.3-2014.1.27 レジデンス 2+スタジオ 2

ダニエル・ゴティンは、2007 に続き、二度目の滞在制作を行った。また、スイスのパーゼルでゴティンが運営するアート機関と遊工房の共同展開の可能性を検討した。滞在期間中、展示会場の空間の特性や可能性を考慮しながら、サイト・スペシフィックなインスタレーションを展開した。インスタレーションは、それぞれお互いに関係し合う複数のユニットからなる作品の集合体となった。粘着テープや、パネル、木材、紙、絵画、写真、ビデオなど、異なった素材で作品を制作し、それらは全てインスタレーションに集約された。



1-2. ギャラリー・プログラム

2013年の展覧会は、13回、13組 24人で、日本在住海外作家を含む、ベテラン、中堅、若手のアーティストがバランス良く発表し、内容も映像、平面（絵画、写真）、立体、インスタレーションなどバラエティーに富んだ1年であった。また、年末には、遊工房に使われず存在していた昭和初期のピアノの半年に渡る再生プロジェクト、「Stuttgart ものがたり」のドキュメント写真展と、修理に関した調律師のレクチャー、さらにライブ演奏で締めくくることがとなった。

池ヶ谷務「かげりと余韻」

2013.1.17-2.3

鉄や鉛など重量を感じさせる素材を用いながら繊細な空気の変化を連想させる作品を制作する池ヶ谷務。モルタルの床、白い壁という遊工房のギャラリー空間において、鉄による新作を中心にインスタレーションを展開した。本展はまた、80年代よりギャラリーとパブリックスペースの双方で発表活動を展開する池ヶ谷による遊工房での初の個展となった。



有木岑生「正しい言葉の使い方」

2013.2.7-2.17

ものと言葉のズレをテーマに様々な方法で作品化する有木岑夫による、遊工房で初の個展。本展では、インターネットから拾ったインタビュー動画を一音節ごとに分解し再構成するアナグラム方式で制作した映像作品を、多数のモニターを使用して見せるインスタレーションなど、新作を発表した。



玉木直子「輪の森」

2013.2.21-3.3

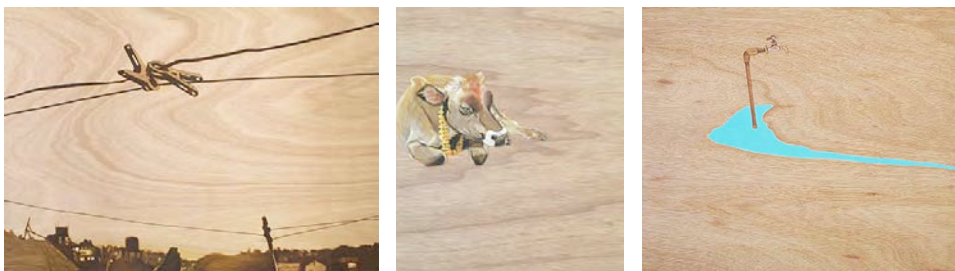
2000年代半ばより国内外で活発に創作・展示活動を展開する玉木直子。本展は「作品をつくる過程でのフィジカルな体験がもたらす変容と、その先に見ることのできる景色を、コラージュの手法をもちいて空間に現したい」という彼女による遊工房4度目の個展となった。



マヤ・ラマ「Nepal-ネパール-」

2013.3.7-3.17

日本に生まれ、ネパールで育ったラマは、米国マサチューセッツのウィリアムカレッジにて美術を学び、現在は日本を拠点に制作を行っている。人間と場所の間にある帰属性を問うラマの作品では、支持体の表面のテクスチャーやパターンは場所にたとえられ、記憶とアクリルペイントが塗り重ねられる。本展では、木を支持体としたシリーズ作品を中心に展示発表を行った。



ジェイミ・ハンフリーズ「ジェイミ・ハンフリーズ個展」

2013.4.12-4.21

ジェイミ・ハンフリーズは東京を拠点にして6年、作家活動のみならず、遊工房アートスペースの運営や子供のためのワークショップを小学校やアーティストとのコラボレーションを通して展開する英国出身のアーティスト。本展では、ハンフリーズの「インスタレーション、ビデオ、紙素材等を通したドローイングという媒体の探求」に焦点を当てた。



Neclectic 「MAKE IT YOURS」

2013.4.25-4.28

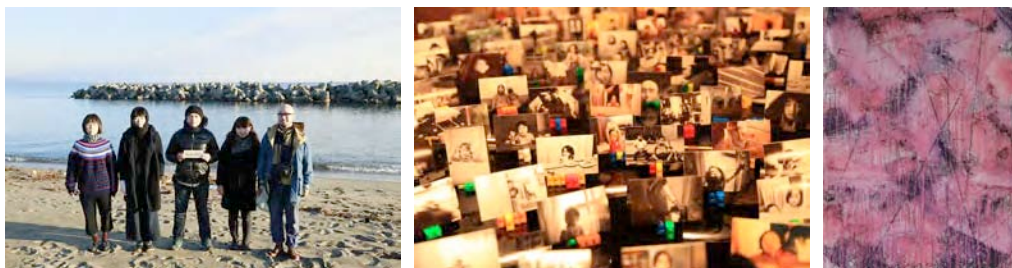
Neclectic はアーティストのシモーネ・マイヤーとローランド・サッターによるユニットで、ジェンダーや個人を超えたブランドを形成するアイデアのもと結成された。スイス、ドイツ、フランスなどで多数の個展、グループ展に参加経験がある。本展は、ニューヨークで開始したプロジェクトの発展形として東京での長期滞在を経て制作された。ナイキの広告文句「MAKE IT YOURS」にヒントを得た作品は、日常生活でうんざりするほど晒されている商業的なメッセージに問いを投げかけるために、あえて広告的な美意識を流用している。本作のサウンドピースは、東京を拠点に活動する音楽バンド aM™[aem]が担当。オープニングレセプションで行ったパフォーマンスでは、来訪者が「MAKE IT YOURS」に参加する立場となる仕掛けをつかった。



門田光雅、平丸陽子、安田豊、町野三佐紀 「ZOU」

2013.5.15-5.26

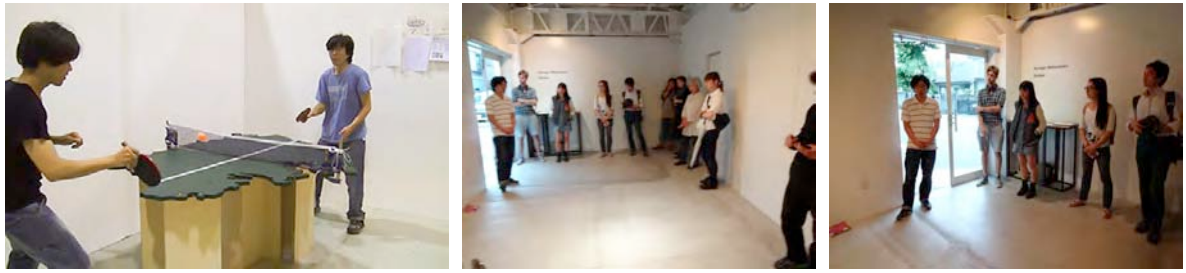
遊工房アートスペースのスタジオスペース活用に当り、2005 年以來出入りのある地元のアーティストグループ「studio ZOU(門田光雅、平丸陽子、安田豊、町野三佐紀)」による展示「zou」を行った。芸術文化を身近に体験できる施設として、地域にも親しまれるようになった遊工房アートスペースで、「遊」を感じさせる瑞々しい作品を展示した。



松本恭吾、木村宗平、森下勇樹、堀真理子「スタジオ ジーン+遊工房アートスペース特集」

2013.5.29-6.16

2011年にチームを結成し横浜・新港ピア・ハンマーヘッドスタジオで活動を始めた「スタジオ ジーン+遊工房アートスペース」は、岡山県と接点を持つ松本恭吾、木村宗平、森下勇樹と堀真理子、遊工房アートスペースで構成されるチーム。メインコンセプトは人と美術をつなげる「コネクト」、社会や都市空間の新しい見方を提案する「ディスカバリー」に捉え活動を展開している。本展では、チームのこれまでの活動、チームメンバーの作品展示と今後の展開を紹介した。



土方大 「Fading in」

2013.9.7-9.29

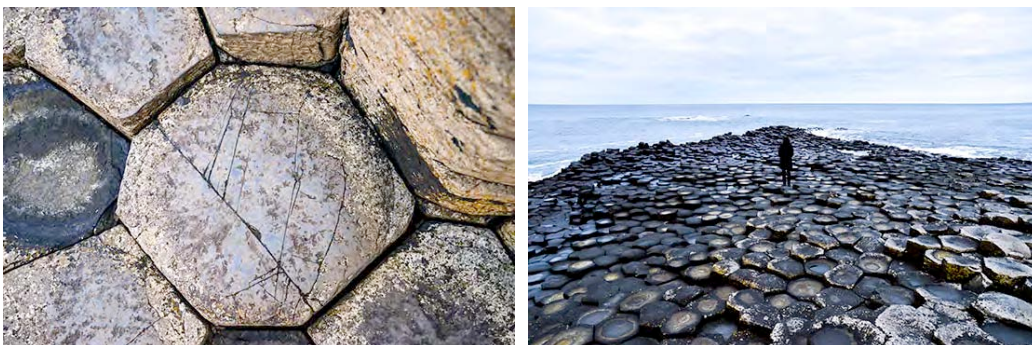
アーティスト土方大は、石川県の金沢美術工芸大学彫刻専攻を卒業後、金沢にてマイクロレジデンス「問屋まちスタジオ」を金沢美術工芸大学と共同で運営しながら制作、発表を行っている。「情景の溶解」をテーマにした制作を行っており、本展「Fading in」では日常の営みの中から断片的に集めた意識や行動、素材を調和させて結晶化させることで、コミュニケーションから生まれる情景を作り出した。



スザンヌ・ムーニー 「On Foreign Ground」

2013.10.16-10.27

「オン・ファーレイン・グラウンド」は、この人間の生息地と人間と自然との間で想定される境界を探るプロジェクトのはじまりとなる最初の展覧会である。彼女は 10 年間、母国の風景のよく知られていない地形を探索し、彼女の作品におけるテーマとして「ランドスケープ」の中で扱っている。彼女は東京に暮らし、大都市を探索した 4 年間の後、新たな視点を持って、アイルランドの風景を再訪問した。



洗川寿華 「Good Night」

2013.11.1-11.10

「Good Night」はコシツェにおける洗川寿華の時間を記録した展覧会である。本展での彼女の作品のインスピレーションは、新しい場所へと旅をした時に感じた彼女の感覚だ。それは、アルコールに酔っている様な感覚ではないが、アルコールによって生存本能を活発にし、そして意識を高められているかのような感覚だ。本展は、彼女のコシツェにおける体験をもとに制作された作品の、集大成となった。



河合智子 「Vibrating in Unison」

2013.11.22-12.1

作者は日常の中にある曖昧な現実には焦点をあてた作品を制作している。現代社会には現実を装った物が氾濫しており、私達は経験や知識、意思を占領していく情報に介入された無意識により目の前の現実を認識しようとする。「Vibrating in Unison—同時に振動する時」は、もしデジャブが記憶のズレではなく、もう一つの宇宙—パラレルワールドと同時に振動した時に起こる現象だとしたら、その振動と同調した時、私達の固定された観念や認識が揺さぶられるということをテーマとした展覧会だ。



1-3. Youkobo PLUS

遊工房アートスペースは、これまで行ってきたアーティスト個人(またはグループ)の実験的な活動の支援に加え、アーティストと積極的に協働して作り上げる展覧会および記録を推進するプロジェクト「Youkobo PLUS」を企画した。

・Youkobo PLUS: インドの山奥から帰ってきました。

芸術で社会のあり方を追求するアーティストの自由で斬新な発想と力強い活動を支援・発信することを目標に、市場の論理に捕らわれないアート活動のあり方を見つめた。本企画第一弾として、インド東部の少数民族(サンタル族)の村で暮らし、給水塔や図書館など村が必要とする設備をアート作品として制作し続けるアート集団Prominority(代表アーティスト岩田草平)と協働して、展覧会とプレゼンテーションを開催した。

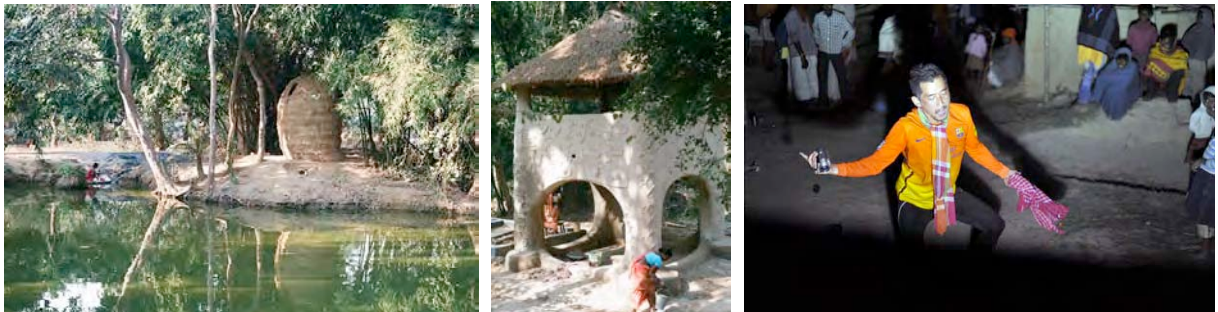
美術や音楽、表現行為のすべてが生活の一部になっており、誰もその事に疑問など持たないサンタル族と生活していると、なぜアーティストは作品をつくるのか?というありきたりな疑問にさいなまれると岩田は言う。そうしたジレンマを抱えながら作品をつくることで、部族の社会とアートをつなぐ、一つの方法論を提示することができるかもしれない。こうして始まったプロジェクトの成果であるマーケット制作展示(岩田草平)、prominorityの活動映像(大木裕之)を「Youkobo PLUS」として発表した。

主催: Youkobo Art Space

共催: Prominority

特別協賛: アサヒビール株式会社

助成: 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団



・Youkobo PLUS: “Piano Project” – stuttgartものがたり

遊工房のスタジオの片隅にあった、Stuttgart というドイツの地名を名前に持つアップライト・ピアノは、昭和初期に横浜で造られたピアノだ。遊工房のスペース改修計画の一環として、このピアノの修復を決め、ピアニストの新井陽子を介して、調律師の斎藤雅顕にピアノの再生を依頼した。修復のため解体した時に、製造年月日が1934年12月18日であることが判明。12月11日～22日には、ギャラリーで修復の経過を写真で展示するとともに、Stuttgart の再生を記念してライブを行った。記録は、ブログから発信、最終的には小冊子にまとめる予定。

ライブ詳細:

Vol. 1: 12月14日(土)

◎未来への音

[演奏]新井陽子:ピアノ、野村雅美:ギター、木村由:ダンス

開場 16:30、開演 17:00-19:00

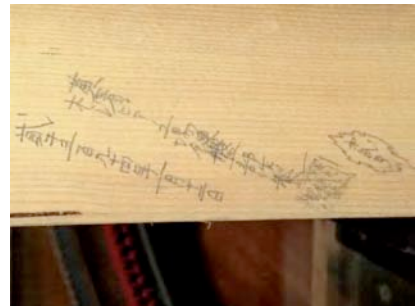
Vol.2:12月21日(土)

◎Stuttgart 物語

[ピアノのお話し]斎藤雅顕(調律師)

[演奏]新井陽子:ピアノ他

開場 16:30、開演 17:00-19:00



1-4. イベント(アーティストトーク、クリティーク・セッション、シンポジウムなど)

遊工房では、国内外のアーティストと、より広いコミュニティとの交流を促すことを目的として、年間を通じてアーティスト・トーク、対談、さらにシンポジウムやワークショップなどのイベントを開催している。また、活動に関連する講演も積極的に行っている。「クリティーク・セッション」は、遊工房でスタジオ制作、ギャラリー展示を行なった作家が、より一歩踏み込んだフィードバックを得られる場として、遊工房スタッフ、遊工房に縁のある作家、美術関係者を集めて、率直な意見を交わす機会だ。

<アーティスト・トーク>

- ・2013.1.19 池ヶ谷務
- ・2013.4.27 エリザベス・プレサ
- ・2013. 4.13 ジェイミ・ハンフリーズ
- ・2013.6.1 堀 真理子
- ・2013.6.14 洗川寿華
- ・2013.6.22 ブロニョン&ステファニ・ロラン
- ・2013.7.5 岩田草平、大木裕之
- ・2013.7.20 レネイ・エガミ
- ・2013.10.19 スザンヌ・ムーニー、港千尋(多摩美教授)
- ・2013.10.24 ライヤ・ジョウ
- ・2013.10.26 アルノー・ガリーギア
- ・2013.12.18 アマンダ・リップォ

<クリティーク・セッション>

- ・2013.2.2 ギャラリー展示 池ヶ谷務
- ・2013.2.21 レジデンス展 ニコラス・バステイン
- ・2013.2.21 ギャラリー展示 玉木直子
- ・2013.3.16 レジデンス展 エリック・シレ
- ・2013.3.16 ギャラリー展示 マヤ・ラマ
- ・2013.4.18 ギャラリー展示 ジェイミ・ハンフリーズ
- ・2013.4.18 レジデンス展 マーガレット・ランゼッタ
- ・2013.4.18 レジデンス展 デイビット・パッカー
- ・2013.7.18 レジデンス展 レネイ・エガミ
- ・2013.7.18 レジデンス展 シーユン・ヨー&ジャスティン・リー
- ・2013.9.22 レジデンス展 アデ&カイ
- ・2013.9.22 ギャラリー展示 土方大
- ・2013.10.24 ギャラリー展示 スザンヌ・ムーニー
- ・2013.11.23 ギャラリー展示 河合智子



<パフォーマンス、その他>

- ・2013.1.12 台湾(花蓮)アートワークショップ 坂本夏海
- ・2013.4.13 「ジェイミ・ハンフリーズ個展」 パフォーマンス 池田哲 & 和田
- ・2013.4.27 「MAKE IT YOURS」 パフォーマンス Neclectic(シモーネ・マイヤー&ローランド・サッター)
- ・2013.5.25 「ZOU」 ピアノライブ 佐野千明さん他
- ・2013.7.20 「Robotic Love Project6581 Part1」 パフォーマンス ジャスティン・リー
- ・2013.12.14 「stuttgart ものがたり」 即興演奏 新井陽子(ピアノ)、野村雅美(ギター)、木村由(ダンス)



<シンポジウム>

- ・2013.8.24 アーティストインレジデンスのほんとうの話
カンボジアのレジデンスと遊工房アートスペースでスカイプ

- ・2013.9.7 アーティストインレジデンスのほんとうの話
スイス・ジュネーブとハンマーヘッドスタジオでスカイプ

- ・2013.9.14 アーティストインレジデンスのほんとうの話
セルビアのレジデンスと遊工房アートスペースでスカイプ

- ・2013.10.5 アーティストインレジデンスのほんとうの話番外編
金沢寿美さんのペニョン島の話@ハンマーヘッドスタジオ



<講演>

- ・2013.1.12 ポルトガル(ギマランエス)アートフェスティバル門田光雅
- ・2013.5.12 遊工房アートスペース ブザンソン大学(フランス)「外の外展(2013.4.2-4.11)」報告会
*「外の外展」ブザンソン大学にて井澤由花子、新藤杏子、長坂絵夢、吉川菜津乃
コーディネーション: 遊工房アートスペース
キュレーター: フレデリック・ヴェージェル
- ・2013.6.19 法政大学 国際文化学部「社会と美術」ダヴィッド・プロニョン
- ・2013.6.19 法政大学 国際文化学部「社会と美術」日沼禎子
- ・2013.9.7 ハンマーヘッドスタジオ
「レジデンスを行うアーティストにとっての英語+企画書の書き方基礎編」江原彩子
- ・2013.11.29 女子美術大学・杉並キャンパス
「This program's purpose is international exchange to know for foreign general culture.」アマンダ・リッフォ
- ・2013.12.13 女子美術大学・杉並キャンパス
「This program's purpose is international exchange to know for foreign general culture.」ダニエル・ゴティン
- ・2013.12.7 ハンマーヘッドスタジオ「フィリピンのアート事情 マニラ編」さいとう うらら、古沢ゆりあ
- ・2013.12.7 ハンマーヘッドスタジオ「ポートフォリオ研究 編集と構成」堀 真理子

<掲載記事・メディア>

- ・2013.2 玉木直子、マヤ・ラマ 雑誌「美術手帳」展覧会情報
- ・2013.3.13 マヤ・ラマ 新聞「東京新聞」展覧会情報
- ・2013.4.6 トロールの森など 新聞「東京新聞」遊工房情報
- ・2013.6 岩田草平、大木裕之 雑誌「美術手帳」展覧会情報
- ・2013.7.3 インドの山奥から帰ってきました 新聞「朝日新聞」展覧会情報
- ・2013.7.23 遊工房アートスペース 新聞「都政新報」村田弘子・達彦 インタビュー
- ・2013.9.11 土方大 新聞「東京新聞」展覧会情報
- ・2013.11.29 河合智子 新聞「東京新聞」展覧会情報
- ・寄居壁画プロジェクト 新聞・TV マルテ・キースリング&ヴィヴィアン・ゲルナト インタビュー
- ・アジア・INSTINC: Project 6581 新聞 村上綾・郁 インタビュー
- ・アジア・INSTINC: Project 6581 雑誌「SINGAPOL ARCHITECT」村上綾・郁 インタビュー
- ・Youkobo Plus 冊子「ASAHI ART FESTIVAL 2013 Official Guidebook」展覧会情報

<出版物>

- ・寄居の白雪姫 The Snow White in Yoriji - 寄居町農産物加工施設・外壁画制作の記録 2012/2013
- ・アジア・INSTINC: Project 6581
- ・ASAHI ART FESTIVAL 2013 Official Guidebook



2. ネットワークを生かすチャレンジ

2-1. マイクロとマクロ：美術大学

2-2. マイクロとマクロ：Foundation・機関

2-3. マイクロとマクロ：ネットワーク

2. ネットワークを生かすチャレンジ

2-1. マイクロとマクロ：美術大学

・共同研究

<タイトル>

Artist in Residence (AIR)を考える：

アーティストの創作活動の場(館)

—その社会装置としての仕組み、ネットワークの可能性

<概要>

「Artist in Residenceを考える—AIR、アーティストの創作活動の場(館)、その社会装置としての仕組み、ネットワークの可能性」をテーマとした3日間のフォーラムを開催。

昨年2012年10月、AIRの世界ネットワーク「レズ・アルティス(Res Artis)」の世界総会が東京で開催され、また、国内でスタートしたマイクロレジデンス についての研究・経過発表会が、レズ・アルティス総会直後にあわせて開催され、あらためてAIRの社会装置としての仕組み、ネットワークの可能性について考える機会となった。AIRの存在がアーティストの創作・制作の場また機会として認知され、活発に利用され、さらに社会の一部としてより機能する存在となるために、さらなる議論、研究が必要である。

本フォーラムでは、国内での活動現況と、幾つかの研究テーマについての報告と議論、ワークショップを行う。AIRの国内外のネットワークの現実の検証、美術大学の調査研究の事例発表、AIRが美術大学との協働の可能性、内外のマイクロレジデンス・ネットワークを主軸とした具体的な共同プロジェクトの実施について検討。アーティスト、AIR事業当事者がともに研究し、議論と実践を重ねることで、社会装置としてのAIRの役割を健在化するとともに、活動のさらなる発展に寄与することを目指す。

<メンバー>

主催をマイクロレジデンス・ネットワーク・フォーラム実行委員会とし、事務局を女子美術大学アートプロデュース表現領域研究室 日沼ゼミに置くこととなった。

<開催予定>

2014.2.21 3331 Arts Chiyoda

2014.2.22 女子美術大学・杉並キャンパス

2014.2.23 遊工房アートスペース



2-2. マイクロとマクロ: Foundation・機関

海外機関との連携プログラムとして、欧州文化首都2013 スロバキア・コシチュエのKAIR、オーストラリアのASIALINK、ニュージーランドのNZASIA、ルクセンブルク大使館との連携によるAIRプログラムの展開が進んでいる。



・欧州文化首都2013-Kosiceとのこと: KAIR×Youkobo

<概要>

Kosice: KAIR×Youkoboは、スロヴァキアのコシチュエが欧州文化首都2013を受賞した記念として行われた、国際的なレジデンスプログラムの一環である。このプログラムの目的は、招聘、派遣されたアーティストが新しく特別な環境で創造性を育むことを支援すること、コシチュエだけでなくスロヴァキアのアートシーン、また日本のアートシーンを刺激すること、そして地元と海外からのアーティストの協力のもと革新的で国際的なアートプロジェクトの発展を促すため行われた。このプログラムの為に、スロヴァキアからはエリック・シレを招聘し、遊工房からは洗川寿華を派遣した。第二弾として、金井学が10月から12月まで、新しいKAIRで滞在制作をした。

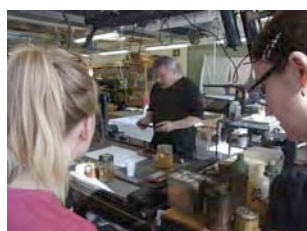
<参加アーティスト>

エリック・シレ、洗川寿華、金井学



・ブルゼニとのこと

2013年夏、欧州文化首都2015のチェコ・ブルゼニから、現地大学の歴史ある夏の国際イベントArtCamp2013への参加機会をEUジャパン・フェストから受け、東京藝術大学OJUN研究室から、佐々木美保子が参加。



・寄居壁画プロジェクト(受注事業)

寄居壁画プロジェクトは、2012年春から2013年にかけて遊工房アートスペースがドイツ系企業ボッシュ株式会社の紹介を受け、埼玉県寄居町から受託して行った、壁画制作プロジェクトである。

2013年春に開設計画だった、寄居町の新たな建築物の壁画制作の依頼を受けた。遊工房のネットワークからドイツ人アーティストを探すこととなった。2010年に遊工房で滞在制作を経験した、マルテ・キースリングと、彼女の友人のアーティスト、ヴィヴィアン・ゲルナトが共同で制作を担当することとなった。2013年2月の来日までは、アーティストはドイツ国内でドローイングや型紙の準備、遊工房は現地での作業や住居の整備、材料の準備の他、各種手続きを済ませ、受入態勢を整え外壁画制作に入った。

寄居町は、埼玉県の北西部、都心から70km圏に位置する自然豊かな、古くからひらかれた歴史ある町である。また、寄居町は県立長瀬玉淀自然公園に指定されている地域でもある。この寄居に新設された農産物加工場の外、壁画として、フレスコ画(セッコ技法)でグリム童話の「白雪姫と7人の小人」をテーマに、町にふさわしい雰囲気で作られた。アーティストは町の方々と交流しながら、白雪姫を基にし、寄居の自然、農産物や動植物などを描き込み、躍動感と希望に満ちた壁画を完成させた。

(石井隆治、2012年12月～2013年3月まで現地支援・現地スタッフとして活躍)



2-3. マイクロとマクロ: ネットワーク

・アジア・INSTINC: Project 6581

<概要>

‘Project 6581’は、マイクロレジデンスとしてローカルとグローバルを繋ぐ活動を続けるInstincと遊工房アトスペースによるコラボレーションプロジェクトだ。タイトル名は、シンガポール(65)と日本(81)の国際電話国番号を表しており、両国より2組4人のアーティストが相互に滞在制作を展開した。グローバル化が進むアートシーンを支えるのは、世界を自由に流民するアーティスト達である。プロジェクトは、アイデンティティーが主要なテーマの一つとなって久しい今日のアートシーンにおいて、彼らの様なアーティストの立ち位置や地域性に改めて目を向けるものとなった。

<参加アーティスト>

シンガポール: シーユン・ヨー、ジャンスティン・リー、アデー・プトウラ・サーファ、カイルラー・ラヒム
東京: 村上綾、村上郁、椛田ちひろ、椛田有理

<プロジェクト第一弾>

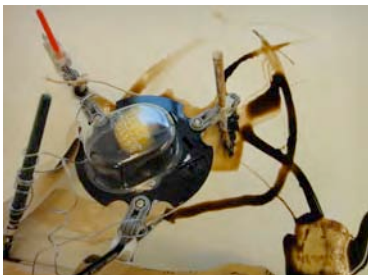
シーユン・ヨーとジャンスティン・リーをシンガポールより迎え、日本滞在中に制作した作品をギャラリーにて発表した。

シーユン・ヨー

滞在期間: 2013.7.2-7.25

展示期間: 2013.7.17-7.21

シーユン・ヨーは、墨絵を描く行為そのものに新しい解釈を加えた作品で高い評価を得た作家。おもちゃのロボットを用いて斬新な制作手法を探索した。



ジャスティン・リー

滞在期間: 2013.7.2-7.25

展示期間: 2013.7.17-7.21

ジャスティン・リーの作品は、東洋と西洋の文化を混ぜ合わせることによって、現代社会と生活様式の異なった解釈を生み出している。滞在期間中は、自然が、どのように日常生活において人間によって支配され、構築されているのか考察した。



<プロジェクト第二弾>

村上綾・郁姉妹がシンガポールに滞在、展覧会を開催した。

村上綾&村上郁

滞在期間: 2013.8

展示期間: 2013.8



<プロジェクト第三弾>

アデー・プトゥラ・サーファとカイルラー・ラヒムをシンガポールより迎え滞在制作を行った。彼らの滞在期間中、日本で制作した作品を遊工房のギャラリーにて発表した。

カイルラー・ラヒム

滞在期間: 2013.9.5-9.24

展示期間: 2013.9.18-9.22

イルラー・ラヒムは、2013年に LASALLE College of the Arts を卒業。シンガポールで活躍する若手アーティストの一人だ。



アデー・プトウラ・サーファ

滞在期間: 2013.9.5-9.24

展示期間: 2013.9.18-9.22

アデー・プトウラ・サーファは、媒体物や素材をたくみに作品に使うことに優れており、インターネット、雑誌、そして記事から彼が選択した写真を多く作品に取り入れている。特に毎日の経験や建築物からインスピレーションを受け、色や雰囲気等の異なった視覚的美学の側面に関心がある。



<プロジェクト第4弾-2014年に続く計画>

- 2014.1 梶田ちひろ・有理姉妹がシンガポールに滞在し、展覧会を開催。
- 2014.2 シンガポールの日本大使館・Japan Creative Centerにてプロジェクト参加作家による総括展を開催。
- 2014.3 遊工房アートスペースにて、プロジェクトの報告展を開催。

・横浜・ハンマーヘッドスタジオ連携プログラム: Studio Jean(レジデンス立ち上げ準備グループ)

<概要>

横浜・ハンマーヘッドスタジオ連携プログラムは、横浜・新港ピア・ハンマーヘッドスタジオにて、Studio Jeanとの協働で展開するアート活動のプロジェクトだ(ハンマーヘッドスタジオは2012年に作られ、新港ピア協議会とBankART1929によって運営されている)。

Studio Jeanは、岡山県と接点を持つ松本恭吾、那須孝幸、木村宗平、森下勇樹と堀真理子で構成されたチーム。人と美術をつなげる「コネクト」、人と人、人と美術、美術と横浜など様々な繋がりを形成するコネクターとなる活動をテーマに活動をしている。また、社会や都市空間の新しい見方を提案する「ディスカバリー」に据えた活動も展開。各メンバーがチームのプロジェクトを持ち、「横浜の都市空間を利用した新しいスポーツを作る」(松本)、「都市空間の中のプライベート領域」(チーム全体)、「都市の中のサウンド」(木村)、「都市空間の中の間隙」(松本)、横浜の海に着目した「謎の海洋生物ハッシーを探せ」(松本)など様々な方向から活動を続けている。

2013年は、アーティストが海外AIRで滞在制作するために必要な心構え、能力など、AIR経験者、運営者などの講演会形式での月次会合の場を継続展開した。ハンマーヘッドスタジオのみならず遊工房での開催、遊工房滞在アーティストの讃歌で幅広いメンバーの参加があった。



・microresidence ウェブサイト立ち上げ

<URL>

<http://microresidence.net>

<概要>

アーティストのためのAIR探しのツールのひとつとなる、マイクロレジデンスのWebサイトの開発に着手、年末にはほぼ完成し、当初の世界中のマイクロレジデンスの仲間、30機関の確認を得て、年明けに正式発信の計画で推進した。このようなマイクロレジデンス、まだまだ調べ方、情報発信の力が足りないのでネットワークの始まりとしては30件だが、今後、数年掛け300、3,000件となりその存在が顕在化できたらと思っている。そして、アーティストの移動、異文化での新たな活動体験の役に立つ存在になればいいと考えています。このWebサイトは、英語だけで発信することにした。英語が海外での活動の共通言語となっている現実をふまえたことで、各国のサイトも多くは英語が外国語ということが現実だ。そして、この発信は、マイクロレジデンスそれぞれの責任で、発信記事の責任をもって、それぞれの自主運営を柱に始めました。アーティストの活用、そして、新たにレジデンスを始める方のための役に立つ道具となるよう、積極的な利用を通して、新しいAIRの展開、そして、社会生活の中にその存在がしっかり定着し、社会装置のひとつとしての存在のAIRとなるように努めたい。



・ジオラマ巡礼プロジェクト

<概要>

ジオラマ巡礼プロジェクトとは、ジオラマは、MICRORESIDENCE!2012の機会に開催した「マイクロ・イントロ展」のために、Julie Upmeyerが遊工房AIRの滞在中に制作し、展示後遊工房に寄贈された。モデルとなった各レジデンスに、今後機会ある毎に届けられる予定である。

2013年は、Arquetopia/Mexicoと、Instinc/Singaporeに手渡された。



3. 地域活動、コミュニティーアート

3-1. 「アートキッズ」 - 子どもの斬新なアートワークショップ

3-2. 野外アート展：「トロールの森」12年目、「春のトロールの森」9年目

3. 地域活動、コミュニティーアート

3-1. 「アートキッズ」-子どもの斬新なアートワークショップ

<概要>

「アートキッズ」とは、遊工房アートスペースの隣にある桃四小で月一回行われるアートワークショップである。9年目を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えている。ワークショップのテーマは年を重ねるごとに多様化し、様々な芸術手法や素材を活用して行なってきた。2013年は、英国出身のアーティスト、ジェイミ・ハンフリーズが、4年目の継続担当として活躍、実験的なドローイングと立体を中心にしたワークショップシリーズを展開した。今年プログラムのの中では、個人で行う活動に適応した単純なテーマと素材を斬新な方法で用いるワークショップ、そして参加者全員の共同制作で作っていく大規模の作品というワークショップもあった。12月には、遊工房アートスペースの滞在アーティスト、アマンダ・リッフォもゲストとして指導し、「宇宙で描こう」というテーマを題にしたワークショップを展開した。暗くした部屋の中で、不可視光と白い紙に描いた発光性のペンキを用いて、参加児童達が宇宙の風景作りを試みた。



3-2. 野外アート展「トロールの森」12年目、「春のトロールの森」9年目

・トロールの森

<概要>

「トロールの森」は、都立善福寺公園を主会場として2002年にスタートした国際野外芸術展だ。大空を映す池と季節ごとに多彩な表情を見せる木々に囲まれた、まちの中の公園で現代アートと出会う3週間。2013年は「森の幸福論」をテーマに、26組のアーティストが、森のいのちの輝きが伝わってくるようなアート作品とパフォーマンスを発表した。「トロールの森」の大きな展開として、今回は西荻窪駅の付近まで拡大し、西荻の三つのカフェ・ギャラリー(+カフェ、バルタザール、GALLERY 494)にもパフォーマンスと作品展示を行った。「ドン！」と始まるように、参加作家とパフォーマーたちが西荻窪駅から会場となる公園までを練り歩く、驚くパレードもあった

<日程>

2013.11.3 -11.23

<場所>

都立善福寺公園(上池周辺)、杉並区立桃四コミュニティスクール、西荻窪界限

<参加アーティスト>

池ヶ谷務、井上幸次郎、吉祥寺わんぱくアトリエ☆宮地淑江&きたがわゆきこwith子供達、凹地、黒野裕一郎、けろりあ、サム・ストッカー、ジェイミ・ハンフリーズ、高島亮三、西山仁、ノダカオリ、マヤ・ラマ、三木祥子、水野歌鳳グループ、村上郁、村上裕太、media+forest

<パフォーマンス>

大坪光路、かぼーれ・かぼーれ・よいとな、佐藤ひろみとPINMY倶楽部、サム・ストッカー、ぜんぷくトリヲ、辻康介・鳥越けい子、パフォーマンスユニット・スカベッキ、フーマイム、三口剛太郎、YUMIKO、ラジオぱちぱち

<主なイベント・プログラム>

- ・オープニング・パーティー
- ・アートツアー
- ・トロールわいわいパレード
- ・パフォーマンス・イベント
- ・オープンカフェ





遊工房アートスペース 年間報告 2013

編集：遊工房アートスペース

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10

TEL: 03-5930-5009 FAX: 03-3399-7549 E-mail: info@youkobo.co.jp

URL: <http://www.youkobo.co.jp> <http://www.artinparks.net/>

2014年2月発行